

町長対談

～黒澤止幾の素顔に迫る～



「時代に創られた偉人 黒澤止幾子伝と渾沌」著者

湯浅 由三



城里町長

上遠野 修

城里町で生まれ育った偉人「黒澤止幾（止幾子）」。勤皇の女傑「日本初の女性教師」といわれている止幾の真の人物像に迫った「時代に創られた偉人 黒澤止幾子伝と渾沌」の著者湯浅由三さんが、本に込めた想いを語ってくれました。

上遠野 黒澤止幾を調べようと思

ったきっかけは何ですか？

湯浅 私は今、水戸市に住んでい

て城里町にはよく邪魔魔している

んです。その時は、たまたま城里

町を通っていたら古民家があり、

気になって行ってみると、止幾の

生家だったんです。そこで、初め

て黒澤止幾の名前を知りました。

そして、少し調べてみたら、意外

と好奇心をくすぐるものがありま

して、ちゃんと調べてみようかな

と思ったのがきっかけです。

上遠野 たまたま、通ったことが

きっかけなんて凄いですね。それ

を調べて出版までしようと思った

のはなぜですか？

湯浅 やはり、「ふるさと」という

のは見て知って、興味を持たない

と愛着が湧きません。私もたまた

ま止幾を知り、いろいろと調べて

いったら、愛着がどんどん深まっ

ていきました。そして、自分が見

て調べたことを多くの人に伝えたくて、書いてみようと思ったんで

す。読者の方には、ふるさを振り

返るきっかけになってくれればと思

っています。

上遠野 タイトルにある「時代に

創られた偉人」とは、どんな意味

なのでしょう？

湯浅 よく知られている止幾の人

物像は、「そうあつて欲しい、そ

うに違いない」との人々の思いに

よって、後から創り上げられたも

のではないかと思うんです。

「勤皇の女傑」と呼ばれる理由を

調べてみると、天皇を祭り上げる

勤皇という時代を背景に、国や天

皇のために尽くした人々を取り上

げた書籍が多く出版されています

た。その書籍で紹介されている中

のひとりが、止幾でした。さらに、

調べてみると、その書籍は、勤皇

時代の風潮の中、国民に国や天皇

へ忠誠を誓わせることを目的に作

られたものでした。その素材とし

て止幾が注目されていたんです。

上遠野 まさに、タイトル通り「時

代に創られた」ということですね。

では、「日本初の女性教師」の由来

については？

湯浅 止幾が注目される、もうひ

とつの時代の波がありました。太

平洋戦争の時代です。昭和11年、

黒澤止幾（止幾子）

止幾は、文化3（1806）

年に茨城郡高野村（現在の太

字錫高野）生まれ。幼い頃に

父と離別し、祖父や養父から

漢学、国学などを学んで

育ちました。止幾は、若い

頃から豊かな知識と才能を

見込まれ、子どもたちの教

育にあたりました。また、各

地の文化人と交流し、俳諧

や和歌などを学んで文芸の

世界にも親しんでいました。

しかし、安政5（1858）

年、前水戸藩主徳川斉昭ら

が、外交問題などで幕府と

対立し謹慎処分を受けたこ

とに怒りを感じた止幾は、

斉昭の罪を晴らそうと単身

京都に向かうも捕らえられ、

常陸国への立入りを禁じら

れました。その後、密かに

錫高野に戻って私塾を再開、

明治5（1872）年に学制

が發布されると、私塾は錫

高野小学校の教場となりま

した。同時に止幾は小学校

教師に任命

され、これ

が日本にお

ける女性教

師の最初と

されています。



※本文は、町指定史跡「黒澤止幾生家」に合わせて、名前を「止幾」で統一して編集しています。



「勤皇の女傑」として注目された止幾を再び賛嘆する伝記本が出版されるんです。そこに止幾は「女性教師の嚆矢」と記されています。「嚆矢」とは、先駆けという意味なんです。よく調べてみると、著者は教師になった年を書き換え「女性教師の嚆矢」と謳っていたんです。後に人々は「嚆矢」という言葉を「日本初」と解釈し、止幾は「日本初の女性教師」と呼ばれるようになります。こうした具合に、著者や人々の願望、時代の流れによって創られたのだと思うんです。

上遠野 その時代の人々の事情が創り上げてしまったのかも知れないということですね。

しかし、止幾はほとんどの男性が字も読めないその時代に、彼女はシングルマザーでありながら、字は当然のように読めるうえに、当時の役人をうならせるような長歌も書くことができた。そんな文化人でありながら、道中に追い剥

ぎや山賊がいるような時代に、女ひとりで京都まで歩いて行ってしまふ。その教養の高さ、行動力はすごいですね。

湯浅 そうですね。ただ、私の中で男尊女卑の切り口はちよつと違ひまして。当時、男尊女卑の社会だったからこそ、現在の黒澤止幾の人物像ができたのかも知れないとも思っています。「女のくせに」とか「女だてらに」とか、そういうものが、逆に彼女をぐつと持ち上げるエネルギー源となり、伝記本にあるような「偉業」につながったように思います。

上遠野 そうですね。彼女であれば、どんなことでもプラスに変えていたかもしれないですね。ところで、この本に書ききれなかったことはありますか？

湯浅 彼女の家族についてですね。止幾は、夫を亡くし実家に戻ると「くし」や「かんざし」の行商で生計を立てるのですが、その時代を記した、ある2つの伝記本を見比べてみると、異なる点があるんです。それは、止幾が実家に戻った後に、登場するひとりの男性の話なのですが、片方の伝記本には、「止幾の後夫」と書いてあり、もう片方には「母の夫」と書いてあるんです。私には、女心はわかりませんが旦那さんか義理の父か、そんな確定的でない男性が家の中

にいる状態を回避したいがために、行商に出たのではないのかなと思うんです。そこで、旅の楽しみや俳諧の仲間たちとの出会いもあったりして。行商と組み合わせた想像ですけどね。本当に不思議な人生を生きた人だなあと感じます。興味は尽きないですね。

上遠野 たくさんの方が伝記本を書いたり、いろんな見方をされたり、黒澤止幾という人物が多くの方から愛されている証拠ですね。では、この本をとおして一番伝えたいことは何ですか？

湯浅 批判の本といわれてしまうかも知れないのですが、正解、不正解は別にして、いろんな見方、考え方があっていいんだよ、興味を持つことが大切だ、ということをお伝えしたいんです。特に子どもたちに。

上遠野 最後の質問になりますが、この本を読んでくれた方にメッセージをお願いします。

湯浅 たくさん調べてきましたが、まだ見つからない資料があると思うんです。だから、この本を読んでくれた方たちが黒澤止幾に興味を持って調べてくれて、新しい資料が出てくると面白いかなと思います。それで、「いやいや湯浅のいってることは間違ってる」という人が出てきてくれたら嬉しいですし、彼女の文才的な面から探ったり、いろんな方が多方面から勉強して、ふるさとを好きになってくれたら本を出版した意味があるのかなって思います。

上遠野 地元の偉人について調べることとおして、郷土愛が深まっていったら素晴らしいですね。本日は、ありがとうございました。



ゆあさ よしみ
湯浅 由三さん

那珂郡東海村出身。茨城大学工学部を卒業後、大東建託(株)へ入社。札幌・横浜・川越・いわき各支店長、東京本社TQC部門長などを歴任。現在は水戸市在住。2020年6月「時代に創られた偉人 黒澤止幾子伝と渾沌」を出版。